

「Diseases of the Liver」7th ed

edited by Leon Schiff & Eugene R Schiff

聖マリアンナ医科大学教授・難病治療研究センター内科

飯 野 四 郎

従来から肝臓病学の世界的なテキストとして定評のある, Schiff 親子による「Diseases of the Liver」が6年ぶりに大幅な改訂がなされ, 第7版が出版された。

この6年間, 肝胆疾患については基礎および臨床の面で幾多の進歩がみられ, その進歩に基づいた項目の修正, 項目の追加, 流れに沿った項目の変更と, 第6版のテキストらしい良さを残しながら内容的には一新されている。

付け加えられた項目を具体的に示せば変化を自ずと知ることができるが, “Hepatic Histopathology”, “Intrahepatic Cholestasis”, “Primary Sclerosing Cholangitis”, “ α_1 -Antitrypsin Deficiency”, “Ascites”, “Fulminant Hepatic Failure”, “Acquired Immunodeficiency Syndrome and the Liver”, “Total Parenteral Nutrition and the Liver”, “Laparoscopic Cholecystectomy”, “Influence of Liver Disease on the Disposition and Elimination of the Drugs”, “Surgical Management of Portal

Hypertension” など, 旧版では独立した項目がなく, 内容が方々に散らばっていて第6版の弱点となっていた項目を補強し, あるいは時代の要請にこたえて新しく項目を追加し, 内容の一層の充実が計られている。

私の専門領域のウイルス肝炎について内容を少し詳しく紹介すれば, “Viral Hepatitis”の項では, 通常のテキストではA型肝炎, B型肝炎, ……と各肝炎ごとに記載されているが, 本書では旧来通り, 歴史, 病因, 疫学, 病理, ……という項目立てになっており, その中で肝炎各型が取り扱われている。古い文献から1992年のものまで, 文献に基づいて記載されている。まとめる側からすれば, 例えば病因について述べる場合に1つの肝炎について述べることは比較的簡単であるが, 各肝炎を同時に比較しながら, それぞれの特徴, 差異を述べることは容易なことではない。しかし, 読者からすれば, 便利であり, 理解しやすいものになっている。また, 引用文献が多いことから, 調べものをするには格好の

参考書となろう。

第6版では1,400～1,500頁の分厚い本であったが, 第7版は分冊になり, それぞれが700～800頁になったため取り扱いやすく, また, 見やすくなっている。

従来から私などは通して読んで勉強するというより, 必要に応じて調べる辞書的使用方をしていたが, 日本人が外国に出かける機会が多くなり, 日本にはない, あるいはあまり見かけない肝臓病に感染する機会が増えてくると, 辞書的に調べなければならないことも多くなると思われる。その意味では, 全世界的な視野で広く肝臓病を取り上げている本書は座右の書として適切なものと言える。

推薦したい肝臓病学の本の1つである。

●Published by J.B. Lippincott Company, New York, in 2 vols. 1,632pp. 807figs. 7th ed. 1993 定価 ¥39,800(税別)

医学書院洋書部(☎03-3817-5670～1)